

コロナ患者の手術は診断後 7 週目以降が妥当 世界 116 ヶ国 1,674 病院 140,727 名の研究データから 本学里井診療教授（日本側窓口）らの国際研究チームが結論

【本件のポイント】

- コロナ陽性診断 6 週間以内の手術で術後死亡率が 2.5 倍以上
- 英国バーミンガム大学が中心、25,000 人以上の外科医が協力
- 研究論文が英国科学誌『Anesthesia』に掲載

学校法人関西医科大学（大阪府枚方市 理事長・山下敏夫、学長・友田幸一）外科学講座里井壯平診療教授、埼玉県立小児医療センター麻酔科藤本由貴医師、ウェイン州立大学小児科黒田直生人医師らの国際研究チームは、新型コロナウイルス感染症（以下「COVID-19」）感染者の手術リスクについて、陽性診断後 6 週間以内に手術を行った場合とそれ以降に行った群とを比較すると、2.5 倍以上の術後死亡リスクがあることを突き止めました。これは、英国バーミンガム大学が中心となって結成された COVIDSurg Group による国際共同研究の結果で、全世界 25,000 人以上の外科医と麻酔科医が協力。アメリカやイギリス、オーストラリア、ブラジル、中国、インド、アラブ首長国連邦、日本など世界 116 カ国 1,674 病院 140,727 名の臨床データを分析し、明らかにしたものです。里井診療教授は National Leads（日本側窓口）として同研究に参加し、本研究の結果 COVID-19 陽性が確定した患者については少なくとも診断後 7 週間以上、COVID-19 感染症状がその後も継続している場合はそれが治まるまで、可能な限り手術を延期すべきとの結論に至りました。一方で、論文の共同執筆者である Dmitri Nepogodiev 博士は「手術を遅らせるかどうかの判断は患者ごとに異なるべきである」と付け加えています。詳しい研究概要は次ページ以降の別添資料をご参照ください。

なお、本研究をまとめた論文が米国科学誌『Anesthesia』（インパクトファクター：5.739）に 3 月 9 日（火）23 時付（日本時間同 10 日 8 時）に掲載されました。

■ 書誌情報	
掲 載 誌	「Anaesthesia」
論文タイトル	Timing of surgery following SARS-CoV-2 infection: an international prospective cohort study
筆 者	COVIDSurg Collaborative and GlobalSurg Collaborative

【本件取材についてのお問合せ】

学校法人 関西医科大学 広報戦略室（岡田・畑森）

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1

電話：072-804-2128 ファクス：072-804-2638 メール：kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

別添資料

<本研究の背景>

世界中で猛威を奮っている COVID-19 については、個々人の属性や置かれた状況に関係なく感染が拡大しており、手術が必要な患者についても例外ではありません。手術中の COVID-19 感染はもちろん、感染状態で手術を行った場合に死亡率が上昇することは疫学的に証明されています。そのため COVID-19 感染者の手術はいつ行うべきなのか、が大きな問題となっています。しかし、国際的なガイドラインでは陽性患者の手術は遅らせることを推奨していますが、その判断根拠や最適な延期期間についてはほとんどエビデンスがありません。結局は、現場の外科医が手術を要する疾患の進行や状態と、COVID-19 の症状を見ながら個別に判断するしかない、というのが現状です。

<本研究の概要>

研究チームは、下記の条件にマッチする患者の臨床情報を収集し、分析しました。

- ・2020年10月に手術を受けたすべての患者のデータを前向きに収集
- ・手術後に COVID-19 へ感染した患者を除く
- ・術後30日死亡率を算出
- ・世界116ヶ国1,674病院140,727名のデータ

<本研究の成果>

COVID-19 に罹患していない患者の調整後30日死亡率は1.5%で、罹患患者の手術例では診断後0～2週目手術群(4.0%)、3～4週目手術群(4.0%)、5～6週目手術群(3.6%)、7～8週目手術群(1.5%)という結果が判明しました。またその傾向は、年齢層や病状の重症度、手術の緊急性、手術のグレードの違い、選択的手術の感度解析などが異なっても、変わらないことも分かりました。

なお、診断後7週間以上 COVID-19 感染症状が継続した患者群(6.0%)は、症状が消失した患者(2.4%)や無症状の患者(1.3%)にとべて死亡率が有意に高い結果となりました。

<本邦における参加病院名> (都市名アルファベット順)

愛知医科大学、弘前大学病院、千葉大学病院、国際医療福祉大学市川病院、東京歯科大学市川総合病院、福井大学、久留米大学病院、九州大学、福島医科大学病院、広島大学病院、札幌医科大学病院、湘南鎌倉総合病院、横浜市立大学病院、横須賀市立うわまち病院、横須賀共済病院、高知医科大学病院、京都大学病院、三重大学病院、仙台医療センター、東北大学病院、奈良県立医科大学、川崎医科大学病院、

【本件取材についてのお問合せ】

学校法人 関西医科大学 広報戦略室 (岡田・畑森)

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1

電話：072-804-2128 ファクス：072-804-2638 メール：kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

PRESS RELEASE



倉敷中央病院、関西医科大学、関西医科大学香里病院、関西医科大学総合医療センター、自治医科大学附属さいたま医療センター、防衛医科大学、埼玉医科大学病院、戸田中央総合病院、埼玉県立小児医療センター、手稲溪仁会病院、中村記念病院、聖隷浜松総合病院、静岡がんセンター、国際医療福祉大学三田病院、順天堂大学病院、杏林大学病院、東京医科歯科大学、三井記念病院、国立がん研究センター中央病院、日本医科大学病院、帝京大学病院、東京医科大学、貢川整形外科病院

<研究参加国・参加病院数>

Country	Participating hospitals	Country	Participating hospitals	Country	Participating hospitals
Albania	3	Hong Kong	4	Qatar	3
Algeria	3	Hungary	6	Rep. North Macedonia	4
Argentina	9	India	56	Romania	18
Aruba	1	Indonesia	10	Russian Federation	23
Australia	44	Iran	16	Rwanda	6
Austria	27	Iraq	7	Saudi Arabia	26
Azerbaijan	2	Ireland	17	Senegal	1
Bahrain	4	Israel	3	Serbia	15
Bangladesh	3	Italy	115	Singapore	4
Barbados	1	Japan	47	Slovakia	2
Belarus	2	Jordan	17	Slovenia	2
Belgium	8	Kazakhstan	5	Somalia	1
Benin	5	Kenya	4	South Africa	9
Bosnia & Herzegovina	2	Korea (Republic)	1	South Sudan	1
Brazil	38	Kuwait	7	Spain	97
Bulgaria	5	Latvia	3	Sri Lanka	11
Cameroon	1	Lebanon	9	Sudan	17
Canada	17	Libya	35	Sweden	9
Chile	9	Lithuania	5	Switzerland	9
China	5	Luxembourg	1	Syrian Arab Republic	14
Colombia	22	Madagascar	6	Taiwan	1
Congo	2	Malaysia	10	Thailand	2
Croatia	8	Malta	1	Trinidad and Tobago	1
Cuba	1	Mexico	26	Tunisia	3

【本件取材についてのお問合せ】

学校法人 関西医科大学 広報戦略室（岡田・畑森）

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1

電話：072-804-2128 ファクス：072-804-2638 メール：kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

PRESS RELEASE

Cyprus	3	Moldova	2	Turkey	47
Czechia	6	Mongolia	1	Uganda	11
Denmark	3	Morocco	7	Ukraine	4
Dominican Rep.	2	Namibia	5	UAE	12
Ecuador	1	Nepal	1	UK	205
Egypt	33	Netherlands	17	USA	69
El Salvador	1	New Zealand	11	Uruguay	2
Estonia	1	Nigeria	31	Yemen	5
Ethiopia	24	Oman	2	Zambia	1
Finland	2	Pakistan	30	Zimbabwe	5
France	44	Palestine	6		
Gabon	2	Panama	1		
Georgia	1	Paraguay	11		
Germany	54	Peru	15		
Ghana	8	Philippines	10		
Greece	30	Poland	4		
Guatemala	9	Portugal	23		

<研究組織について>

英国国立衛生研究所 (NIHR) は、バーミンガム大学に 700 万ポンドを支出し、NIHR Global Health Research Unit on Global Surgery を設立しました。このユニットは、低・中所得国の様々な国で SSI (surgical site infection: 手術部位感染) を減らすための介入を試験する多国間無作為化比較試験の実施に取り組んでいます。今回の COVIDSurg Group は、このユニットの支援を受けて行われました。

参考: <https://globalsurg.org/>

【本件取材についてのお問合せ】

学校法人 関西医科大学 広報戦略室 (岡田・畑森)

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1

電話: 072-804-2128 ファクス: 072-804-2638 メール: kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

リリース先：大阪科学・大学記者クラブ、文部科学記者会、
科学記者会、厚生労働記者会、厚生日比谷クラブ

PRESS RELEASE

2021年3月15日

No.000158



<本件研究に関するお問合せ先>

バーミンガム大学

国際コミュニケーション・マネージャー

Tony Moran

TEL：+44 (0)782 783 2312

E-MAIL： t.moran@bham.ac.uk

学校法人関西医科大学

外科学講座 診療教授

里井 壯平

大阪府枚方市新町 2-5-1

TEL：072-804-0101

E-mail： satoi@hirakata.kmu.ac.jp

【本件取材についてのお問合せ】

学校法人 関西医科大学 広報戦略室（岡田・畑森）

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1

電話：072-804-2128 ファクス：072-804-2638 メール：kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp